

# 企業ニュース 大阪有機化学工業

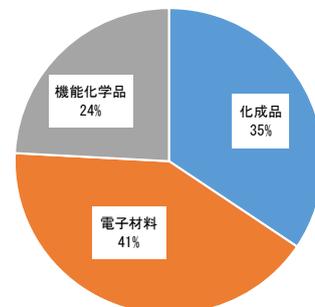
(東証プライム: 4187) <https://www.ooc.co.jp/>

作成者: 兵藤三郎

## 特殊アクリル酸エステルメーカー

◇21. 11期売上高構成比

1946年、光学レンズ用接着剤「カナダバルサム」などの製造販売を目的に設立。1960年代より特殊アクリル酸エステルの製造に取り組んできた。特殊アクリル酸エステルはさまざまな化学素材の性能や機能を高める目的で添加剤として用いられる。顧客の用途などに合わせた製品ラインアップを持つ。事業セグメントは顧客用途に合わせ右図のように分類される。化成品は、自動車用トップコート原料など、電子材料は、半導体フォトレジスト材料やディスプレイ材料など、機能化学品は、化粧品材料などの用途として用いられる。旺盛な半導体需要を背景に、足元は半導体レジストの原料販売が好調に推移している。先端半導体原料であるArFレジストモノマーは世界シェア第1位、EUV（極端紫外線）用レジスト原料の引き合いも多く、さらなる採用を目指していく方針。



(出所) 大阪有機化学工業資料より  
CAM作成

## 半導体レジスト原料の旺盛な需要が業績をけん引

22. 11期・第1四半期（12-2月）の連結業績は売上高が81億円、営業利益が17億円、前年同期比9%増。当期期初より収益認識に関する会計基準を適用しているため売上高の増減率の開示はないが、変更に伴う減少影響が約15億円あり、実質19%程度の増収。売上面では2021年2月に三菱ケミカルより頭髮化粧品用のアクリル樹脂事業を譲受した影響が大きい。利益面では半導体向けのArFレジスト用原料の販売が好調に推移したことを要因として伸長した。半導体向け原料を含む電子材料のセグメント利益は10億8,100万円、同11%増。

22. 11期連結業績の会社計画は、売上高が330億円、旧売上高基準では前期比8%増収、営業利益が59億円、同1%増。引き続き主力のArFレジスト原料が好調に推移、EUV用レジスト原料のさらなる採用増も寄与しよう。2022年3月には半導体関連材料の新規研究・試作設備増設を発表、引き続き拡大が続く需要に合わせ、対応していく方針が示された。原材料価格高騰の影響は受けようが、第1四半期における営業利益の進捗状況を勘案すれば、拡販施策などで補えている模様。

### [株価動向・投資判断]

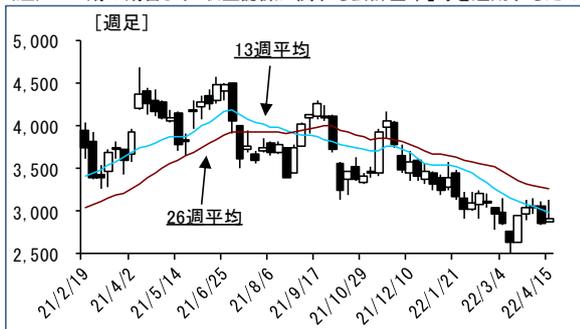
旺盛な半導体需要に伴う原料需要の増加が業績をけん引している。継続的な生産能力増強投資により、中期的な成長も期待できよう。

<4187 大有機 業績: 日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
20. 11	28,681 ( 0)	4,442 ( 21)	4,612 ( 20)	3,313 ( 9)	149.6	46.00
21. 11	35,027 ( 22)	5,852 ( 32)	6,253 ( 36)	4,998 ( 51)	225.7	50.00
22. 11 予	33,000 ( -)	5,900 ( 1)	6,150 ( ▲2)	4,200 ( ▲16)	189.6	52.00

(注) 22.11期の期首より「収益認識に関する会計基準」等を適用するため、22.11期・予の売上高の伸び率は「-」表示



[主要株価指標] (売買単位: 100株)

株価 (2022/4/15)	2,915 円
年初来高値 (高値日)	3,585 円 (22/1/13)
同 安値 (安値日)	2,503 円 (22/3/8)
予想 P E R (22. 11 予)	15.4 倍
1株株主資本 (PBR算出用)	1,768.6 円
P B R	1.65 倍
予想配当利回り	1.78 %
(1株当たり配当金 52.00円)	
R O E (21. 11)	13.6 %
発行済み株式数	2,241 万株